

普通がむずかしい

畑 中 幹 夫 (新36回生)

私が、岩高に在籍していたのは昭和五六年から五九年で、当時は街角ではロックンロール(ローラー)、バイクはスクーター、私服はDブランドブームでガソリンは ℓ 200円前後コカコーラを飲むか給油するのか当時の我々には最大の問題だったように思います。

学校が終わると内丸の白龍^{パイロン}でじゃじゃ麺を食べ、次に友達の家にとむろするか他校の生徒達と待ち合わせの喫茶店に行き、自分たちなりの夢や趣味の話をしたり、好奇心で酒・タバコに手を出してみたりで、二年生くらいまでは、将

来についてなど何とかなるだろう程度の考え方でしかありませんでした。悪友(親友)の中にも途中で退学になった者も数名いたし、今思えば自分も同罪でしたが、たまたまバレなかった例も多少はありました。

こんな生徒たちが多いため、先生の愛のムチ(竹棒)攻撃は日増しにエスカレートし、放課

後の職員室には、常連の数名が呼び出され、個別授業ならぬ、個別愛のムチ講習が開催されました。

それにも負けず悪業を行った生徒は一人二人

と自然消滅していきました。卒業して久しぶりに消滅した人に会う事もありますが、卒業した人以上に当時を懐かしんでいるようです。

このように私の分析では岩高カラーとは、先生も生徒もOBもサツパリした人間関係が多く、陰湿な問題もあまり耳にした事がありません。

今でも思いますが、他の高校とは良い意味で教育方針が違うのではと、例えば、仕事上で営業に行つて会話の中でどこの高校を卒業したのと言うような話が多々出て来ます。たまたま先方の社長さんや担当者が岩高卒業者だと、先生方



の名前やお互いの担任の先生の癖や特徴を話題に盛り上がってしまうことがあります。もちろん仕事上も大プラスです。それまで一度も会ったことがない人間が岩高という共通点のみで、仕事ではなく学生に戻り先輩後輩になってしまふから不思議です。

もちろん他の高校の卒業生も母校に対する思

いは同様としますが、岩高の場合は歴史と伝統はもとより、石桜魂が自然に身につけてしまふのです。多くを語らずとも何を行うべきとか、厳しい社会生活での協調性の意味、他人を思いやる気持ち等、私自身は正直に話をする、勉強が嫌いでしたので赤点常習者で進級とか卒業という時期が来ると胃が痛い事が多かったのを覚えています。

何度も言うように、私の場合は岩高で学業知識よりも、対人間（ヒューマニズム）を学びました。初めにお話したように当時私はいかにして学校をサボるかタイプの人間でしたので、あの日のある先生の一言がなければ、前記のように途中消滅している方の一員だと思っています。

その日は夏の暑い日で、当時私は授業中雑談が多く、MS先生の直命を受けて後列から教壇最前列に移動させられた直後の、英語の授業で先生は大ベテランのN先生、授業も残りあと五分程、得意の休憩時間の準備で片付けを始めた私の、茶色いチョンバックに貼ってあったステッカーを見て、先生が私に言いました。畑中そのステッカーに書いてある英語を訳してみろ、と。ステッカーにはTOO FAST・TOO LIVE・TOO YOUNG・TOO DIEと書いてあり、私が黙っていたら先生が若いときに自分勝手な行動ばかり取っていると、人生若くして死んでしまう（心身ともに）と忠告されました。

その瞬間普段であれば笑ってごまかす程度なのですが、何故かショックで、普段からもう三年生なのだから、就職の事とか将来の事について真剣に考えなくてはと思っていた自分自身の声のように聞こえたのです。それから家に帰って様々考え、明日からマジメにして普通に残りの高校生活を送ろうと決めては見たものの、普通への基準も分からなかったし、今までの乱れた生活をなかなか改善できませんでした。普通にとの意味を勘違いして、友達の交際をやめればと他人に冷たくした時期もありました。親友からも最近変だぞと言われたり、電話がきても、出なかつたりとつまらぬことで疎遠になった友達もおりました。

時が過ぎて、卒業就職と忙しく、特に社会の厳しさは、身に染みる思いでした。振り返れば、愛のムチⅡ社会訓練だったのだと再認識させられる事が多々ありました。愛のムチを教訓に一二年間頑張ってきた、仕事も順調に行き、ここ数年一部ではありますが、石桜同学年会も年に一度行っています。各々当時の思い出や、エピソードの真相をお互いに話したりして、何年たってでも違和感もなく楽しい話に盛り上がっております。

最後に、岩手高校で学んだことに感謝し、諸先生・先輩方のご健勝をお祈りいたしまして本文の結びとさせて頂きます。